

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

大切なことは人間の尊厳という絶対的価値 盛田 正孝（曹洞宗大本山 総持寺 後堂老師）

1. 「人の心はおカネで買える」と言ったベンチャー企業の経営者がいます。本当にそうでしょうか。確かにおカネや能力があれば自分の夢を実現するのは容易になります。しかし、そうした相対的な価値観だけで生きていくと、いずれ壁にぶつかるか落とし穴に足をとられてしまいます。今の世の中の不祥事の多くは、相対的な市場競争に生き残ることばかりを考え、自分を見失った人びとによって起こされています。
2. 自分の目的や手段によって役に立つか立たないか、効率的かそうでないか、勝つか負けるかで判断する価値観はあくまでも相対的なものであり、時間や環境、見方によって変化します。それゆえに、一方では永遠に変わらぬ絶対的な価値観を人生の指針として生きることが不可欠です。
3. 競争社会では、おカネもなく働くこともできない赤ちゃんやお年寄りや障害者は役立たずということにされてしまいますが、じつはみな、その物差しでは測ることのできない存在自体として尊いのです。それは、決して侵すことのできない絶対の価値なのです。

(参考：「週刊ダイヤモンド」2008年5月31日号)

人事・労務について

社内提案制度のあり方

1. ANAにはハリウッドの映画制作さながらに、提案した本人自身がディレクターとなってチームを作り、企画を進めていく社内提案制度がある。「バーチャルハリウッド」と呼ばれるこの制度では、「ANA銀行を作りたい」といった新規事業から「機内モニターで現地を案内する電子スチュワーデス」のような身近な提案まで何でもありなのだ。
2. 2007年に開設された安全教育センターはその申し子だ。この施設の開設を提案したのは、27歳と26歳の入社5～6年目の女性だった。また、経営陣はしばしば現場の社員と10人程度の少人数で対話する「ダイレクトトーク」という会合も開く。年間30回は実施し、現場の不満や要望をきちんと吸い上げる制度として機能しているのだ。

(参考：「日経ビジネス」：2008年5月26日号)

新規成長分野

静かなブーム「古民家」(木の家)

1. 日本は国土の3分の2が森林で覆われ「森の国」である。地域の木を使い、昔ながらの工法によって作られる「古民家」には、高温多湿の風土で長持ちするための大工や職人の技術と、何世代も住むことを前提とした思想が詰まっている。
2. 「古民家」が静かなブームだ。もちろん日本の古民家のことで、木の家だ。100年という時間をかけて育った木を素材に家を建て、少しずつ手を加え、普段も丁寧に手入れしながら孫の代まで100年以上長持ちさせる。その時、木は立派に再生している。自然のサイクルに見事に符号しているのである。

(参考：「WEDGE」2008年9月号)

古典に学ぶ

本心を認めよ

「ままずみずから自おのれら己の心有るを認むべし。しか而のちる後、そんよう存養に力を得。う又まさ当に自ら己の心無きを認むべし。而る後に存養こころに効を見る」

(訳) まず自分に本性のあることを認めなければならない。この本性をそうしゅ操守して失わないように修養して向上の力を得る。同時に修養によって自我、我欲は自分の本心でないことを認めるべきだ。その後真の効果が現れてくる。

(参考：佐藤一斎「言志四録」)：PHP文庫